



JUSTICE

<http://jrtu-eu.com/index.html>

A cartoon illustration of a hand breaking a stone. The stone is split into two pieces, with the left piece labeled '規制' (Regulation) and the right piece labeled 'システム' (System). The background is a bright yellow starburst shape.



イーストイノベーション
2016〜2018
イーストユニオンから

「変革への挑戦」

労働組合へ加入する
意味と意義の再考

J・R 東日本の中には、大小にかかわらず複数の労働組合があります。社員はどの労働組合に加入してもいい「オープンシヨツプ制(社員が自由に選択)」という制度となっています。

ら問題はありません。しかし社員が組合を選択することに對して、会社から社員の皆さんへの関与はできないようになっていきます。(労組法第7条…不当労働行為の禁止)

では、皆さんは何を基準にして組合を選択したらいいか。それは、皆さんが今所属する労働組合

を振り返って見て、職場環境と仕事の在り方、社会生活での考え方等について、それぞれの組合を対比して見ることで、労働組合としての責務や活動の違い、組合員への対応の仕方の違いが見えてきます。そこに組合に加入する意味や意義があると思います。JR東日本で働く皆さんには、まずはオープンショウプ制であることを理解したうえで、自分自身が納得して組合を選択することが重要です。無関心に流されて組合に加入することは、労働組合を悪くする一因となつてしまします。自身の将来のためにも、労働組合の在り方について、ぜひ再考していただきたいと思います。

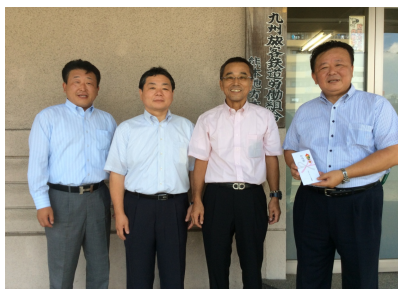
イノベーションを
考えよう

- ・いま、時代は大きく変わろうとしている（いつの時代も言われること）
- ・どのように変わろうとしているのだろうか。
- ・きつと必ずや変わるのだらう。良くもなれば、多くは悪くなるのだらうか。
- ・変えられてしまう、と

いう受動的なイメージ。
・それを、変えていこう！
というのが「イノベーション」

- ・能動的に、社会（仕組み）を良い方向にして行こうということ。
- ・労働組合は、ひとりではありません。多くの労働者が集まっています。
- ・いまの変わりつつある社会は、先行き不安だから。
- ・高度成長期のようなわけにはいきません。
- ・当時のように勢いある活力を生み出せるような時代ではありません。
- ・でも、すこしでも前に向って、明るい社会をめざしたい。
- ・明るい家族の笑顔が見たい。
- ・ちょっとした想像（イマジネーション）が、皆でより良い将来へ向かうための礎になると思うのです。

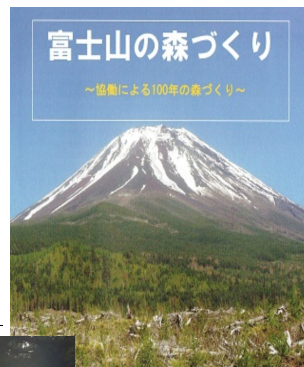




☆ (左上:写真)・吉田 J R 連合組織部長・笹岡 J R 四国労組本部青年女性会議議長・伊藤 J R 四国労組青年女性会議役員・芦原 J R 九州労組本部執行副委員長・大久保九州労組本部執行委員
・神田広栄氏
・藤原光男氏
☆ (上:写真)
坂本熊本地本執行委員長へ
神田新潟地本執行委員長から
カンパ金の贈呈。

J R 連合は「財団法人オイスカ」が取り組む「富士山の森づくり」の取り組みに賛同し、2007 年度から植林ボランティア活動を行い、以降、下草刈り、シカ害対策ネット設置作業など毎年取り組み、昨年度については、

8 月 27 日 (土)
山梨県鳴沢村
「富士山の森づくり」
(ボランティア)



OISCA

雑木の「除伐」作業をおこなってきました。今回は、全 64 名、松岡

会長、河村事務局長を先頭に参加しました。また、イーストユニオンから 4 名が参加しました。(関東から中村氏、和知氏、吉田氏、新潟から斎藤氏が参加)
J R 連合の進めるボランティア(オイスカ)活動として大雨の為、10 年目で初めての作業中止でした。残念ですが、自然には逆らえません。
お風呂に入り懇親会(バーベキュー)をして解散しました。

新潟地本の神田地本委

連合「2016 平和行動 in 長崎」への参加

中央本部は、8 月 21 日、新潟県佐川流れに於いて本部が初めて主催するキャンプを開催した。

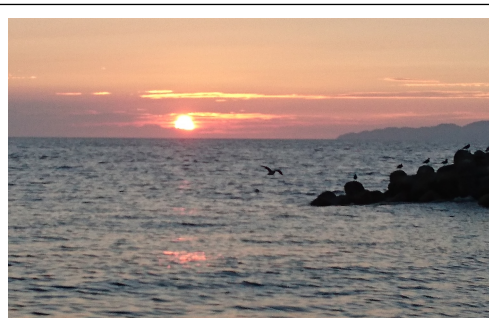


イーストユニオン
第 1 回本部キャンプ
開催される

参加者は 25 名が集いました。日帰りで参加した組合員も居ました。キャンプとは名ばかりと近場の民宿に泊まった方々も居ました。何はともあれ、台風 7 号と台風 9 号の間で有りましたが、何とか天気にも恵まれ夕方から深夜までバーベキューや花火を大いに楽しみました。



新潟地本から差し入れられた新鮮な魚介類は大変、美味しく地酒と併せて堪能させて頂きました。キャンプの村長を務めました。池田新潟地本事務局長から、天候にも恵まれましたので事故や怪我なく楽しいキャンプに成るように無茶はしないで楽しい夏の思い出を作ってくださいと乾杯に先立って挨拶をしました。



各地区から差し入れられた、手作りの漬物、枝豆、そして地酒は一味違つて旨かったし、手作りのカレーやそうめん、焼きたてのステーキ、カルピ、牛タン、焼きおにぎりも、やっぱり美味しかった。活きの良いサザエ、アワビは少し砂を感じさせながらも、やっぱり旨かった。



雄気堂々

ジェイアール・

イーストユニオン

新潟地本 執行委員長

神田広栄

日本人が人間として世界に認められていなかった時代、もっと言うなら有色人種が人間として認められていなかった時代、今から71年前に私たちの祖先は悲惨で惨たらしい、どんな言葉でも言い表せないような人体実験を行われた。7万4千人余りの尊い命が一瞬に奪われ、現在は日本屈指の観光都市、港湾都市の長

崎は、「原子爆弾」という悪魔のような兵器によって、一瞬にして焼け野原となった。

私と藤原前新潟地本副委員長は、8月8日長崎県立総合体育館メインアリーナで開催された「連合2016平和ナガサキ集会」に参加してきました。



悪魔の原子爆弾が投下された夏も暑かったように福岡空港も、うだるような暑い日でした。

私たちは、初の九州でありJR博多駅からは、JR連合の同志の皆さまが安全・正確を確保している「特急かもめ号」で、第44回目の開催会場があるJR浦上駅に向かいました。最も爆心地が近くであった浦上駅では、吉田JR連合組織部長をはじめ、今回の集会に一緒に参加されるJR四国労組の仲間である笹岡本部青年議長らと合流し、早速、会場に向かいました。

会場となった県立総合体育館前では、全国から参加されている高校生による募金活動が行われていました。第19回目となる今年は長崎県の高校生3名の他、全国から選ばれた計22名の平和大使がスイス・ジュネーブの国連欧州本部に高校生1万人署名簿を手渡し、核兵器廃絶を訴えるスピーチを行うほか「核兵器の廃絶と世界の恒久平和を求める被爆地長崎の願い」を伝えるそうです。幸い、新潟県立三条高校から参

加していた笑顔の素敵なお嬢さんにカンパを行い、事情をお聞きすることが出来ました。



15時半の定刻に開催された集会の冒頭には、厳かにハンドベルのオープニングが行われ森連合長崎会長の開会の挨拶から始まり、お亡くなりになられた尊い御霊への黙祷後、主催者である神津連合会長、来賓の中村県知事、田上市長、マモドゥITUC(国際労働組合総連合)人権・労働組合権局長からは、世界平和への断固とした決意と次世代への継承を訴えていました。

今もなお、世界には1万6千発にも及ぶ核兵器が存在し、覇権主義を包み隠さず自国中心の野望と冒険主義を繰り返す国々があること自体、私たちは核兵器の脅威から解放されていないのです。アメリカのオバマ大統領が示したように核兵器廃絶

に向けた強い意志を世界のリーダーが持ち、真摯に行動する日がくることを願って止みません。

私たち一人ひとりが、その意志を明らかにし、具体的行動を通じて、一層具現化するものと確信します。職場の民主化も、世界平和も根底は同じで、日々の実践とたゆまぬ努力が大きな成果を、奇跡をも起こすものと考えさせられました。

集會会場を後にした私たちは、長崎市内を眺望できる高台にある宿「にしょうかん別邸紅葉亭」に行き、1570年当時の領主大村純忠によって開かれ、ポルトガル船来航以来、海外貿易の窓口として発展してきた港を中心とした夜景の美しさと共に、再び宿の窓から「平和の尊さと大切さ」を噛みしめ、岩口長崎地



方本部執行委員長をはじめ三役の方々と懇親を深めてきました。

長崎市内全体が「祈りの日」となる翌9日、私たち2名はイーストユニオン独自で募金した第2回目となるカンパ「熊本地震カンパ金」を最も被災地が多くあるJR九州労組熊本地方本部へ届ける目的で、JR長崎駅から旅立ちました。



